

# 設備投資、賃上げ鍵に

## 鶴屋洋一郎・日銀水戸事務所長



県内経済展望を語る鶴屋洋一郎  
日銀水戸事務所長＝水戸市南町

県内経済の展望などについて、日銀水戸事務所の鶴屋洋一郎所長に聞いた。

(報道部・前島智仁)

― 昨年の県内経済を振り返り

2014年4月の消費税率引き上げ後、長引いた消費マインドの冷え込みの影響が薄れ、個人消費は底堅く推移した。雇用・所得環境の改善が進む中で、エネルギー価格の

下落により消費者物価も前年に比べ横ばいで推移し、実質所得が前年比プラスの基調が続いたことが要因とみている。一方で、新興国経済の減速による輸出減少などから、鉄鋼や生産用機械を中心に生産活動は弱い動きが続いており、製造を中心にリスク要因と捉える企業は増えている。

― 16年の展望は。

先進国を中心とした成長が波及し、新興国経済は減速から脱していくと考えられる。これに伴い、県内企業の生産活動も持ち直してくる。景気回復の鍵を握るのは、企業の設備投資や賃上げの動向だ。日銀は2%の物価目標実現に向け、大規模な金融緩和を続

## 重要な災害復興

けており、実質金利は極めて低い状況にある。この環境を生かし、設備や人材への投資に取り組んでほしい。

― 成長へ向けて求められる課題は。

緩やかな回復基調を維持しているが、浮揚感に欠けている。回復を加速させるには、構造的な問題への取り組みが重要だ。その一つは常総市の災害復興。生活・産業基盤の再建に向け県を挙げて取り組みまなければならない。二つ目は地方創生。企業立地で本県は大きな成果を上げている。自治体は、誘致した企業の従業員が地元で根付くための暮らしやすいまちづくりを具体化する局面を迎える。「まち」が「人」を呼び、「人」が「仕事」をつくる流れを生み出す必要がある。